

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370411

研究課題名(和文) ペルシア古典神秘主義詩における「人間」の諸相

研究課題名(英文) Countless Images of Human Beings in Classical Persian Literature

研究代表者

佐々木 あや乃 (SASAKI, AYANO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：60272613

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：12世紀のペルシア神秘主義詩人アッターールの叙事詩『神の書』の数多の逸話に登場する人物像に焦点を当て、女性や狂人、恋する者とその愛の対象等が物語で担う役割を明らかとし、数編の論文において成果として発表した。女性については、当時の社会状況から類推するに、アッターールは肯定的な眼差しをもって描出することも多いものの、いかなる特徴をもつ女性を物語の核に据えるかによって、その描出・表現方法は一定のスタイルを保ちつつも、担わされている役割には大きな差異が存在することが明らかとなった。また、『神の書』についてはこれまで邦訳がなされていなかったため、本研究期間中に精力的に和訳を進め、下訳が完成するに至った。

研究成果の概要(英文)：I have worked on analyzing various characters in Attar's mathnavis such as Mantiq al-Tayr (The Conference of the Birds) and Ilahi-namah (Book of the Divine), and investigated the correlation between these characters and mystical concepts and meanings. These two mathnavis contain numerous colorful narratives and anecdotes which can be considered as the manifestation of Perso-Islamic mysticism. Since these stories were strongly influenced by popular transmitted oral narrations in 12th century, I have examined the symbolic characters of these sufi tales, and finally defined notions of Islamic mysticism which the poet aimed to show. I believe that Japanese people would be provided with a broader picture of mystical literature, and their idee fixes of Islam would be shaken, therefore I am sure that this project could be expected to play the role of epoch-making affair through the research on classical Persian literature in Japan. I also completed the translation of Ilahi-namah into Japanese.

研究分野：ペルシア古典文学

キーワード：ペルシア神秘主義文学 アッターール 神の書 鳥の言葉 女性像 狂人

1. 研究開始当初の背景

(1)日本におけるイラン研究は、主要古典作品の翻訳やペルシア文学史概説といったペルシア語・ペルシア文学研究がその発端であったにもかかわらず、歴史研究や地域研究等の分野においてとりわけこの20年ほどの間に大きな進展がうかがわれる。一方、文学研究に目を転じてみれば、イラン現代文学に限定すれば、昨今若手研究者が現代詩の翻訳作品を自費出版する等、特筆すべき活躍を示しているものの、日本における本格的なペルシア文学研究は、20世紀後半に始まった表層的な紹介の時期からまだ大きく脱せずにいる。日本において馴染みの薄いジャンルであるため、一般に普及しにくいことがその最大の要因であることは否めず、日本におけるペルシア文学研究の裾野はなかなか広がりを見せていなかった。

(2)このペルシア文学研究の日本国内における遅々とした歩みの一方で、イラン本国及び欧米をはじめとする諸外国でのペルシア古典文学研究は、イランを代表する文学研究者で、テヘラン大学文学部の看板教授シャフィーイー・キャドキャニー博士による12世紀の神秘主義詩人アッターールの叙事詩作品『神の書』、13世紀の神秘主義詩人ルーミーの抒情詩集『シャムス・タブリーズ詩集』が校訂・出版される等、写本校訂に基づいた信頼性の高いペルシア古典テキストの定本が次々と世に送り出されてきた。また、シャフィーイー氏に次ぐ代表的なペルシア文学研究者として世界中のペルシア文学研究者の耳目を集める人文学・文化学研究所文学部門教授プールナムダーリヤーン博士は、ルーミー研究書『陽光の陰で』や14世紀のイランを代表する神秘主義詩人ハーフィズの研究書『浜辺を流離うもの』等を精力的に出版し、本国でのペルシア文学研究の礎をより一層堅固なものとしている。

(3)研究代表者は、ペルシア古典の精華と評される各々のペルシア神秘主義文学作品の基礎的研究を日本においても可能にすべく、2009年秋、上述のプールナムダーリヤーン氏を日本学術振興会外国人招聘研究者(短期)としてイランより2か月間招聘した。ペルシア詩がイスラーム神秘主義思想やイスラーム哲学と交差する分野において、従来断片的に指摘されるに留まっていた学問的課題を解明する氏に間近で接し、ペルシア神秘主義文学についての講演や意見交換を通じて、知見を深める貴重な機会を得ることができた。こうした研究者交流による後押しも受け、以下の2つの科学研究費補助金研究に代表されるように、21世紀になってようやく日本におけるペルシア古典文学研究が移行期に突入したといえる。

科学研究費基盤研究(B)「古典期ペルシア語神秘主義テキストのデータベース化によ

る文体論的研究」(研究代表者:藤井守男、平成16~18年度)

科学研究費基盤研究(B)「ペルシア語説教テキストのデータ解析による神秘主義的表象世界の基礎研究」(研究代表者:藤井守男、平成20~23年度)

研究代表者は、上記の研究分担者として研究の一端を担い、説教テキストのデータベース化に携わる中で、ペルシア語神秘主義テキストに描かれる「人間」に強い関心を抱いた。さらに、科学研究費基盤研究(B)「語り手と女:ジェンダーを巡るイランの文学的言説の研究」(研究代表者:藤元優子、平成19~22年度)で、12世紀の神秘主義詩人アッターールの『神の書』に登場する主たる女性像に着眼したことにより、物語詩でさまざまな役割を担う存在として描写される人物像全般について、より深い関心を抱くに至った。

(4)研究代表者は、「語り手と女」の科研が始まった頃からアッターールの『神の書』の邦訳に着手していた。

2. 研究の目的

(1)12世紀の詩人アッターールの作品のうち、最も名高い神秘主義叙事詩『鳥の言葉』と、数々の逸話によって構成される神秘主義叙事詩『神の書』の2作品に登場する人物像を分析したうえで、神秘主義用語との相関性を明示する。

(2)『鳥の言葉』で鳥の姿を借りて描かれている多様な神秘主義修行者を、また『神の書』で各々の逸話に登場する人物や動物等を抽出することによって、アッターールの意図する人間像や、詩人の提示する「人間としての生き方」を探りつつ、詩人が伝えようとしたイスラーム神秘主義思想を具体的に示す。

(3)『神の書』の翻訳を完了する。

3. 研究の方法

(1)12世紀の神秘主義詩人アッターールのペルシア叙事詩のうち、最も有名な作品『鳥の言葉』と最初期の作品『神の書』を選定し、そこに描かれている人間の姿を明示、分類した後に、その特徴を洗い出す。

(2)上記2作品のテキストを入力し、将来的なデータベース化を見据えつつ、テキスト研究を進める。

(3)イランを含む海外在住のペルシア古典文学研究者複数名を研究協力者とし、年に1度研究協力者とのテキスト分析の機会をもつ。そこでの意見交換を踏まえ、両テキストに現れる神秘主義修行者らの姿を明示する。

4. 研究成果

(1)アッターールの叙事詩作品『神の書』の中

で、繰り返しさまざまな姿で説話が登場する「狂人」像について考察をおこなった。詩人アッタールについて綿密な情報整理をおこない、『神の書』という作品についても詳細な解説を施したうえで、『神の書』に登場する「狂人」の特徴を挙げた。身分や社会階層に捉われることなく、誰に対しても臆さず物言う狂人の姿を浮き彫りにし、理性を凌ぐ、よ^ッガ^ラ強[↓]力[↓]が授けられた「狂人の体をなす賢人」の考察を進め、この像に託されたアッタールの思いを解明するに至った。

(2)アッタールの叙事詩作品『鳥の言葉』には、シャイフ・サンアーンという、強烈なインパクトのある魅力的なキャラクターが登場する。そして、この人物像はアッタール自身の抒情詩集にも登場するのみならず、アッタール以降のペルシア神秘主義詩人の作品にも度々描かれており、約2世紀後のペルシア抒情詩の巨匠ハーフィズも彼の名を刻んでいる。シャイフ・サンアーンという人物像とその物語の起源や特徴等への考察を深めた結果、神秘主義説話文学としての「シャイフ・サンアーン物語」から導かれる教訓、アッタールの込めたメッセージが明らかとなり、ハーフィズの難解な抒情詩に充実した注釈が施されるに至った。

(3)アッタールの最初の叙事詩作品『神の書』に描出された女性像に着目した研究をおこなった。第一章の物語「夫が旅に出てしまった高潔な女の話」の主人公と、複数の逸話に登場する老婆とに的を絞り、アッタールが各々の像に託した思いを探り、当時の女性に対するアッタールの視線を浮き彫りにすることにより、修行という苦難や真の愛を経た後によく神に到達できるという、イスラーム神秘主義思想の教訓を導きだすことに成功した。さらには、「神」と称されるものは何ぞやという問いにも挑み、イスラーム神秘主義思想という、遙か彼方の地で、我々日本人とは無関係に繰り広げられてきたと考えられていたものが、人間の生き方を追求した一つの方法であり、万人への理想的な生き方の提示であると結論づけるに至った。

(4)アッタールの『神の書』邦訳を進める中で対峙した多くの問題点について、イラン人研究者の理解や助言を促す意味合いから、学会発表をおこない、それを論文としてまとめあげるに至った。日本とイランの文化的背景の違い、歴史や神話の違い、宗教的側面からの相違点、言葉のもつ音楽性や比喻表現の違い、またアッタール特有の女性や犬、男色家への肯定的眼差し等を挙げることによって、『神の書』の翻訳作業がスムーズに進む一助となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

SASAKI Ayano, "Ta'ammoli dar hekayat-ha-ye Ilahi-name-ye Attar az manzar-e tarjome be zaban-e Japoni (Pondering upon Stories in Attar's Ilahi-nameh through the Japanese Translation)", *Proceeding of the International Congress of Spiritual Horizon and Works of Attar-e Neyshaburi*, 査読有、2016、pp.83-109(101-130).

佐々木 あや乃、「ペルシア神秘主義文学の女性像 アッタールの『神の書』より」、総合文化研究、査読無、Vol.19、2016、pp.6-16、<http://hdl.handle.net/10108/81432>

佐々木 あや乃、「ハーフェズ詩注解(10)」、東京外国語大学論集、査読無、Vol.92、2015、pp.93-111、<http://hdl.handle.net/10108/84892>

佐々木 あや乃、「ペルシア神秘主義説話文学にみる「狂人」 アッタール著『神の書』の場合」、総合文化研究、査読無、Vol.18、2014、pp.66-81、<http://hdl.handle.net/10108/81432>

[学会発表](計1件)

SASAKI Ayano, Ta'ammoli dar hekayat-ha-ye Ilahi-name-ye Attar az manzar-e tarjome be zaban-e Japoni, International Congress of Spiritual Horizon and Works of Attar-e Nishaburi, 2015/04/12 at Sa'eb Hall in the University of Isfahan.

[図書](計1件)

Dehkordi, Ali Jalali(ed.), *Proceeding of the International Congress of Spiritual Horizon and Works of Attar-e Neyshaburi*, University of Isfahan and Tokyo University of Foreign Studies, 2016、159p+188p..

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.tufs.ac.jp/ts2/society/Attar2015/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 あや乃 (SASAKI, Ayano)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授
研究者番号：60272613

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

プールナムダーリヤーン タギー
(PURNAMDARIYAN, Taqi)
文学・人文学研究所文学部門、教授
ミールバーゲリーファルド セイイエド・アリー (MIRBAGHERIFARD, Seyyed Ali)
イスファハン大学文学部、教授
レイースイー エフサーン (RE' ISI, Ehsan)
イスファハン大学文学部、講師
ターヘリー・タンハー ザフラー (TAHERI TANHA, Zahra)
オーストラリア国立大学、教授
カラハリロヴィッチ ナーミール
(KARAKHALILOVIC Namir)
サライエヴォ大学、教授
鳥光 真理子 (TORIMITSU, Mariko)
東京外国語大学、学部生